

一 地域に飛び出す市民国際プラザ 一

市民国際プラザでは、自治体や地域国際化協会とNGO/NPO、企業等で連携し、先進的な活動を行っている先への訪問や情報収集をしており、ダイジェストで報告・ご紹介をしています。

○救える命があれば、どこへでも。「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム」

日時：2017年12月25日 場所：認定特定非営利活動法人AMDA (岡山県岡山市)

認定特定非営利活動法人AMDA (以下、AMDA) は、紛争・災害・貧困に苦しむ人々への保健医療支援を柱とする国際人道支援活動をアジア・アフリカを中心に実施してきた国際協力NGOです。

そのAMDAが、岡山県、徳島県、高知県の18の自治体と、12の医療機関、及び企業やNPO、教育機関と協定を結び、「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム」を推進しています。

このプラットフォームでは、岡山県総社市にAMDA合同対策本部を設置し、発災から2ヶ月間を緊急支援期として支援を行います。そのための「事前備蓄」と「事前交流」が柱となります。

事前備蓄では、AMDAの医療チーム20人の、1週間分の生活物資を準備します。避難所の物資は避難者のために準備されているので、医療チームの物資が別途必要になるからです。

現在、徳島県では美波病院とさくら診療所、高知県では内田内科消化器科が協力しています。事前交流では、自治体とAMDA派遣チーム、拠点となる医療機関の3者が顔合わせをし、お互いに準備状況の確認などを定期的に行っています。

また、地震の際には瀬戸大橋の不通、山崩れなどでアクセスが悪くなるのが一番の懸念事項ですが、自衛隊ヘリやフェリー、水上タクシーなど輸送手段の確保とともに、輸送訓練や通信訓練も実施しています。

南海トラフ巨大地震では32万人が亡くなると予想されており、東日本大震災の20倍の規模です。AMDAは、少しでも被害を小さくする為に、国際協力で培ってきた経験と、そのノウハウを活かし、日本国内で最大級の地震災害に備えるプラットフォームを構築してきました。

残念ながら、必ず起きてしまう大災害に、「困った時はお互い様」という相互扶助精神のもと、「救える命があれば、どこへでも」をモットーに活動しているAMDAが、日本でも活躍してくれることに大きな期待が寄せられています。



○「事前復興」で地震と津波から住民を守り、

安全・安心・持続可能なまちづくり。 - 徳島県 美波町 -

日時：2017年12月26日 場所：徳島県美波町役場

徳島県美波町は、太平洋の大海原と山の自然、澄み切った川などの大自然に囲まれ、夏には大浜海岸にアカウミガメが産卵に訪れる町です。

美波町は、「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム」に徳島県内でいち早く協定を結んだ自治体です。なぜなら、地震における甚大な被害が予想されるものの、美波町の医療の現状は、当直医1名に看護師3名、事務員が1名と総勢5名であり、美波町だけでは対応は無理であり、職員も町外在住者が多く、避難所の場所によっては参集が困難と予想され、怪我人、病人も多くなることが予想されるからです。



12月22日にAMDAの医療チーム、美波町役場、美波町の3者で、「事前交流」を行いました。美波町は、2012年から住民組織・美波町・徳島大学が協力し、「事前復興」でまちづくりを計画し、公共施設の高台整備を進めています。事前復興まちづくりに関する住民の意向調査では、特に幼稚園・保育所の早期移転の要望が高かったようです。今回の事前交流では、そうした高台整備の状況も確認しています。

災害に備えるだけでなく、「サテライトオフィス」の誘致など、地方活性化に向けたまちづくりも同時に行っており、若者が移住し、町が元気になったとの声もあがっているそうです。

災害に負けない、そして地域活性化のためのまちづくりの両輪で、安全・安心・持続可能なまちづくりに挑戦している美波町の取り組みに、これからも注目していきたいと思えます。

門前町サテライトオフィス開設 2018.1.7



○徳島県発、国際協力NGO「TICO」、地域住民の健康を「食」から守る！

日時：2017年11月26日 場所：特定非営利活動法人TICO（徳島県阿波市）

特定非営利活動法人TICO（以下、TICO）は、アフリカのザンビアを中心に医療・農村開発などの国際協力活動をおこなっている徳島発の国際協力NGOです。

TICOを中心とした、さくら診療所グループとして、ザンビアへの国際協力のほか、「**地域の人達の健康を食から守る、お年寄りの食を宅配で守る**」として、**コミュニティカフェの運営**やその為の**農業法人**も立ち上げました。食材も有機野菜、調理方法もエコな方法にこだわっているそうです。また、**さくら診療所は「AMDA南海トラフ災害対応プラットフォーム」における備蓄・活動の拠点**でもあります。

TICOには国際協力に関心が高い医療関係者が、「**TICOに行けば国際協力に携われる**」と、集まってきました。そうした医療関係者を育て、現場に出してあげたいという気持ちから、若い人の育成の場として「**地球市民カレッジ**」を2ヶ月に1回程度開催しています。

コミュニティカフェでは雇用の創出も狙いのひとつのことです。そして医療関係者のグローバル人材の育成や、そうした人たちが集まる「場」であるTICOで、これからも新しい試みが生まれていくことに期待が高まります！

○アジアにおけるSDGsの推進：新たな視点－「みんなのSDGs」シンポジウム－

日時：2018年1月16日 主催・共催：みんなのSDGs・聖心女子大学グローバル共生研究所・JANIC・外務省NGO研究会
SDGs市民社会ネットワーク（場所：聖心女子大学グローバルプラザ）

東アジア、東南アジアにおけるSDGsの推進をテーマに、新たな視点からSDGsを考えるシンポジウムが開催されました。

シンポジウムの内容は、**科学技術革命と関連づけたSDGs論、東アジア3ヶ国政府レベルにおけるSDGsの政策への反映状況比較、NGOにおけるSDGsを強く意識した活動へのシフトや、特にゴール16：平和と公正の重要性への言及、SDGs達成とイノベティブなジェンダー主流化への取組み、SDGsを推進する上での重要課題として途上国の都市化のパラダイム・シフトについて、と、様々な角度から、実に多岐に渡る内容でした。**

登壇者のお一人の言葉をお借りすると、SDGs採択3年目を迎え「古き良き」SDGs-貧困をなくす、持続可能な環境づくりといったイメージから変貌している、特に東アジアで顕著に現れているとお話もありました。

今後も引き続き、SDGs2030年のゴール達成に向けて、様々な層での積極的な取り組みが望まれます。

○JANICは設立30年を迎えました！

日時：2018年1月31日 場所：Tokyo Concerts Labo

Thank you
for 30 years

皆さまと共に歩んだ30年に、感謝を込めて。



国際協力NGOセンター JANICの、設立30周年を記念したレセプションが行われました。

JANICは2017年度、新たに「**NGOの力を最大化する**」をスローガンとして掲げ、理事・職員一同、これからのJANIC活動の新たな方向性を議論してきました。レセプションでは、その成果が共有されると共に、これからのNGOおよび国際協力活動の発展に向けて親交を深める機会となりました。

同日は、人員不足や外部の研修参加のための予算確保などに悩む団体が、情報共有・学習・提言をする自主的活動として、「**スモールNGOワーキンググループ**」を開催し、課題を共有しつつ解決に向けた前向きな実効性ある方策の提案がありました。

また、NGOの活動の基盤となる組織強化の取り組みを表彰する、「**組織強化大賞2017 授賞式**」も併せて行われました。

30周年記念ページも公開され、トップメッセージ、30年の活動年表ダイジェスト、JANICのこれまでの活動と今後の方針がわかる内容になっています。ぜひご覧ください！

URL：http://www.janic.org/janic_30th_anniversary/



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



(一財)自治体国際化協会 市民国際プラザ

URL <http://www.plaza-clair.jp> E-mail international_cooperation@plaza-clair.jp